



いのちのたび

Tel 681-1011 Fax 661-7503
 https://www.kmnh.jp
 発行:北九州市立いのちのたび博物館
 ミュージアムティーチャー

もうすぐ夏休みになりますね。いのちのたび博物館では、夏の特別展「とぶ 空を旅する生きものたちの大冒険」を7月18日(土)より開催します。スタッフ一同、皆様のお越しをお待ちしております。

夏の特別展「とぶ 空を旅する生きものたちの大冒険」

【開催期間】令和8年7月18日(土)~9月23日(水・祝)

空を「とぶ」生きもの謎に迫る特別展です。鳥類を中心に、翼竜、昆虫、さらには哺乳類、トビウオ、植物、イカまで、「とぶ」生きものたちが大集合。生きものたちがいつ、どんな進化を経て空へと進出したのか、空の移動に適応した形と飛び方はどのようなものか、そして、空を飛ぶ生きものはどのような旅をしているのか、たくさんの標本の紹介とともにこれらの疑問に答えます。

翼を開くと10mにもなる史上最大級の飛翔生物「ツアルコアトルス」の生体復元模型や、猛禽類「クロハゲワシ」の飛翔姿勢の剥製標本は必見!お見逃しなく!



りょうきん 料金	とくべつてん 特別展のみ		じょうせつてん 常設展のみ		けん じょうせつてん とくべつてん セット券(常設展+特別展)	
	いっ 般	だん 体	いっ 般	だん 体	いっ 般	だん 体
おとな 大人	1000円	800円	600円	480円	1300円	1100円
こ 高・大生	600円	480円	360円	280円	900円	700円
しょう 小・中生	500円	400円	240円	190円	700円	500円

・団体は30名以上のお一人様料金です。



企画展 同時開催!「中国の玉器と青銅器—恵良宏コレクション公開」 「江戸時代北九州の古文書—恵良宏コレクション公開」

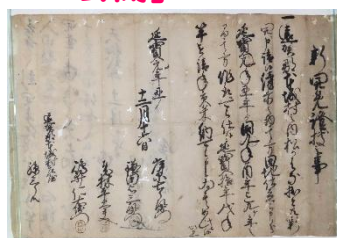
会期 令和8年6月27日(土)~8月23日(日)

※ 常設展入場券で観覧できます

皇学館大学名誉教授恵良宏先生から寄贈いただいた中国出土の考古資料と近世の古文書史料を公開します。



玉佩



延宝元年(1673)新開免證據之事



ミュージアムのタネ



いちど み かいきにつしょく
 一度は見たい!皆既日食

今年8月12日(日本の時間では13日の未明)にヨーロッパで皆既日食が起こります。残念ながら日本からは見えませんが、テレビやニュースで大きく取り上げられるのではないかと思います。皆既日食は息をのむほど美しいので、ぜひ楽しみにしてください。



日食は、太陽、月、地球がこの順に一直線にならぶことで起こります。この時、地球からは太陽の手前に月(真っ黒な新月)が重なるため、太陽が欠けて見えます。太陽のはじが欠けると「部分日食」、真ん中が欠けると「金環日食」、全体が欠けると「皆既日食」になります。

写真は、2012年5月21日に東京で見られた金環日食です。この日の天気はうす曇りだったので、雲を通して指輪のように輝く太陽が見えて感動しました。仕事を休んで東京まで行ったかがありました。なお、本当は太陽を直接見てもはいけません。目をいためないように、必ず日食グラスを使いましょう。

一方、皆既日食はこれまで見たことがなく、一生に一度は見たいと思っています。日本で次に皆既日食が見られるのは2035年9月2日(北陸~北関東)ですから、それまで目を大切に長生きしようと思います。ちなみに、日本で次に見られる金環日食は2030年6月1日(北海道)です。

皆既日食はめったに起きないうえ、世界のごく一部でしか見られません。今回の皆既日食は、グリーンランドからアイスランドを通過してスペインにかけての細長い地域でしか見られず、そのまわりでは部分日食になります。また、ある場所で皆既日食を見られる時間はだいたい数分、今回は2分ほどです。どうしてでしょうか。

まず、太陽のまわりを地球が、地球のまわりを月が回っていて、この3つがきれいにならぶタイミングがあまりないことがあります。また、地球から見る太陽と月の大きさはほとんど同じなので、太陽と月がピッタリ重なって見られる場所や時間はさらに少なくなります。少し残念に感じるかもしれませんが、そのことを知っているのと皆既日食を見る楽しみや感動がさらに大きくなると思います。

自然史課学芸員 森 康